

コンプライアスマネジメント研修

～前向きなコンプライアンス体制構築のコツ～

概 要

マニュアルを整備し、責任者を配置し、チェックリストをつくるなど、コンプライアンス体制を構築したにもかかわらず、なぜコンプライアンス違反がなくなるのか。要因の一つに「社員の当事者意識の欠如」があげられます。コンプライアンスが「自分ごと」になっておらず、ルール通りに仕事をしていられない実態や他に大切な業務があって「言い訳」ばかりが先に出てくる実態。これらの実態を根本的に解消し、積極的にコンプライアンスに臨まない限り、実効性の高い体制にはなりません。この講座では、成功した会社の事例解説を含め、前向きにコンプライアンスに取り組む組織づくりのポイントを解説します。

対 象

現場管理者、新任管理者

研 修 時 間

6時間

カリキュラム例

内 容	形 式
コンプライアンスとリスクマネジメントの基本的な考え方 ①コンプライアンスに関する受講者への問いかけ（現状認識の確認） ②コンプライアンス・マネジメントの必要性 ③現場が認識すべきリスクの種類と影響（事例紹介を含む） ④リスクの特性（責任のあり方との関係・リスクの連鎖） ⑤リスクマネジメントの基本体系（考え方としくみ） ⑥リスクマネジメントプロセス ⑦要因分析（人はなぜコンプライアンスに反した行動をするのか） ・なぜなぜ分析の留意点 ⑧具体的な改善策の立て方	講 義
ミニ演習（講義形式の中で演習） ①リスクに関するミニワーク ②個人ワーク課題（受講者が各自で考えてテキストに記入する）	演 習
演習内容の共有（グループワーク形式） ①ミニ演習で各自が出した内容をグループ内で共有 ②グループで共有した内容と「リスクに関する気づき」を発表 ③講師解説	演 習
事例演習（個人ワークのちグループ討議） ①オペレーショナルなミスが原因で生じた不祥事ケースをもとに演習 ・なぜ「やってはならないこと」が生じるのか？ ・現場担当者が認識すべきコンプライアンスリスクについて考える ②要因分析と改善策の立案 ・現場にどのようにコンプライアンスの認識向上を促すかを考える ③発表と解説 ・各グループが認識したリスクを発表（共有） ・分析した要因と改善策を発表（共有） ・講師から発表への質問と講師解説	演 習
まとめと質疑応答（質問がない場合は、講師から問いかけ）	